

2016年度 事業報告

1. 幼児教育および子ども科学教育への支援

当財団の活動の柱は、実践論文の募集を主体とする2つの教育助成、「ソニー子ども科学教育プログラム」（小・中学校を対象）と「ソニー幼児教育支援プログラム」（保育所・幼稚園・認定こども園を対象）である。それぞれ「科学が好きな子どもを育てる」、「科学する心を育てる」を主題として実践論文を募集し、特色のある優れた教育を行う学校・園への助成を行っている。当年度は、「子ども科学教育プログラム」で220件（昨年比+12件）、「幼児教育支援プログラム」で109件（同▲2件）と、「子ども科学教育プログラム」は、昨年を大きく上回る応募となった。これは、ソニー科学教育研究会（SSTA）が主催する「SSTA 全国特別研修会」などの研修会への参加者や、「科学の泉」の指導員への論文応募の働きかけに加え、「理科みらい塾」や新たにスタートした「理科みらい講座」に参加した若手教員に、論文執筆を通じた教育実践の重要性を認識いただけたことなどが功を奏している。また、SSTA 各支部での論文応募への機運の盛上げや、各種研修会にて論文応募に関する説明をするなど、年間を通じた地道な活動が確実に論文数の増加に結び付いている。また、「幼児教育支援プログラム」は若干の減となったものの、全国各地の保育所・幼稚園・認定こども園での論文説明会や、SSTA の先生方の協力による各地の園への広報にも努めたことで、来年度の応募数増に期待。

2. 教員に対する支援

（1）SSTA への支援

実践論文の募集と並んで、小・中の教員への支援には長い歴史があり、現在は、「ソニー科学教育研究会（SSTA）」による活動を軸に助成している。特に SSTA の主要な研修会は、支部（都道府県）を越えて各地から教員が参集する宿泊研修であり、各地の教員が、密度の濃い議論と質の高い研究・研修を行うことが、他団体にはない活動の特徴である。また、SSTA 会員への確実な情報の提供、会員意識の高揚、活動への理解浸透が重要であり、これを目的とした「SSTA 通信（年2回発行）」の第3版を5月末に、第4版を1月末に発刊した。「科学する心」の理解を深める有用な情報、研修会の案内や教材の紹介、支部や会員の活動報告など、会員に有益な情報を掲載し、会員一人一人に直接、郵送するなど、会員から高い評価を得ている。加えて、「SSTA 専用ホームページ」を全面リニューアルし、ユーザーフレンドリーな画面構成と良好なアクセス環境を整えたうえで、ものづくり体験や教材アイデアなどの豊富なコンテンツを掲載したことで、アクセス数の向上につながった。

（2）理科教員への支援

SSTA に所属する35歳未満または採用10年未満の若手教員を全国から公募し、8月17～18日の2日間、16名が参加して、2回目となる「理科みらい塾」を開催した。「科学する心」を育むうえでの両輪となる「理科の授業づくり」（講師は早稲田大学教授 露木和男氏）と「科学の原理・法則」について、自ら指導案作りを取組んだり、実験・測定を行ったりして、理科の授業についての理解を深めた。また、2日目には、ソニー(株)でオーディオ機器の開発に携わるエンジニアから、実物のデモや技術的な解説を聞いたり、開発現場を見学したりする機会を設けた。参加者からは高い満足度を得ており、有意義な研修とするためにカリキュラムを見直しつつ、毎年、開催する。また、できるだけ多くの全国の教員にこのような学ぶ機会を提供するために、「理科みらい塾」のカリキュラムから、「科学の原理・法則」を実験・測定を通して学ぶセッションを抜き出し、SSTA の支部に出向いて行う「理科みらい講座」を今年度から始めた。年間を通して8支部で開催し、約150名の教員に参加いただいた。参加者の評価も高いことから、継続して実施する。

(3) 海外の教育団体との交流活動

教員の海外派遣については、今年度、本プログラムで初めて SSTA 会員を対象に“公募制”を導入。数名の応募者から、「海外で理科授業にチャレンジしたい」という強い意志のある教員 1 名を選考（以前は SSTA 常任理事からの推薦制）。8 月 12 日（金）から 20 日（土）の日程で、現地校では、オーストラリアの教員による理科授業の見学、日本の教員による「“日本流” 理科特別授業」、教員同士のディスカッションを行う他、帰国後の授業に役立てていただけるよう、ASTA の協力を得ながら CSIRO Discovery Centre（オーストラリア連邦科学産業研究機構）、Geoscience Australia（国立地質研究所）、NASA Deep Space Center（キャンベラ深宇宙通信施設）などの施設見学を実施。公募で参加された教員からは、「教員人生が変わるくらいの体験」との感想が聞かれた。一方、ASTA 教員の受入れについては、10 月 1 日（土）から 9 日（日）の日程で、ソニー子ども科学教育プログラムで「優秀校」を受賞した小・中 2 校と、愛知県下ではトップレベルのスーパーサイエンスハイスクールである刈谷高校を訪問。オーストラリアの小・中学校ではロボティクス授業が必修化されており、来日した 3 名のうち 2 名は、小学校で STEM(※) 教育やロボティクス教育の研究に従事。

※ STEM: Science, Technology, Engineering, and Mathematics

3. 科学の泉－子ども夢教室

「科学の泉」は、「自然に学ぶ」をテーマに、白川英樹理事を塾長として、仲間と寝起きを共にしながら、自然とのふれあいを通して科学を学ぶ活動である。第 12 回は、2016 年 8 月 7 日（日）～12 日（金）の日程で、昨年に引き続き、長野県小県郡青木村で開催した。運営面では、昨年と同様、青木村からの絶大なご支援をいただき、自然豊かな環境の中で、28 名の塾生と 7 名の指導員が活動した。導電性プラスチックの実験では、新型の小型アンプを採用したことで、これまでより大きな音のでる透明フィルムスピーカーが完成し、塾生のよき体験、思い出となった。

4. ソニーものづくり教室

「ソニーものづくり教室」は、2007 年より全国の小・中学校の児童・生徒の科学への興味や関心を高めることを目的に、“ものづくりに関する体験教室”を継続している。「ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング山形サイト」、「ソニー生命京都支社」が新たに参入し、これまで開催が無かった地域での「ものづくり教室」が実現するも、継続実施ができなくなった。開催回数を減らしたりするグループ会社もあり、開催数、参加人数ともに減少する結果となった（昨年実績は 44 回で、本年見込は 33 回）。新しい企画として、SSTA に所属する小・中の教員を対象に、「ものづくりの教材アイデア」を募集したところ、5 件の作品が寄せられた。多くの教員に興味を持っていただき、学校や家庭で試してもらえることを願い、SSTA ホームページに作り方と動画を掲載するページを設置した。

以上